

リスクマネジメント

基本的な考え方

JSRグループは、重大な危機の発生を未然に防ぐこと、および万一重大な危機が発生した場合に事業活動への影響を最小限に留めることを経営の重要課題と位置づけ、この課題へ対応するため、「JSRグループ リスク管理規程」を定め、「リスク管理委員会」が中心となってリスクマネジメントに取り組んでいます。

● リスクマネジメント体制

JSRグループでは、サステナビリティ推進会議の傘下にリスク管理委員会を設置し、当該委員会が当社グループにおいて顕在化あるいは潜在化している重大なリスクを包括的に管理する体制を取っています。

リスク管理委員会は、重大なリスクの特定を主導するとともに、関連する担当各部門が行う、当該リスクへの対応方針の策定およびリスクマネジメント計画の立案・実行を支援することで、当社グループのリスク管理を推進しています。特定された重大リスクについては、対応策の進捗状況をサステナビリティ推進会議および取締役会に報告しています。

また、リスクマネジメントシステムを内部統制システムの一部としており、内部統制システムの執行状況は、逐次、取締役会に報告されています。JSRの経営監査室が、会社法および金融商品取引法で要求されるJSRグループ全体の内部統制の整備・運用状況を継続的に確認・評価し、現存する業務上のリスクが許容レベル以下に保たれるように図っています。さらに、グループ全体の内部統制水準の維持・強化に努め、業務の適正かつ効率的な遂行を確保するために内部監査を実施しています。

● リスクの洗い出しと重要リスクの選定

JSRグループでは、リスク管理委員会主導のもと、グループ企業を含む国内外全部門において、定期的にリスクの洗い出しを行っています。全部門からのボトムアップによるオペレーション上のリスク洗い出しに加えて、経営層による経営戦略および事業継続の基盤に関わるリスク洗い出しを合わせることで、潜在化している重大なリスクを含めた、包括的なリスク管理に努めています。

洗い出されたリスクは、リスクマップの活用により経営への影響度と発生頻度の観点から区分され、特に事業継続に大きな影響を及ぼす可能性があるリスクを「JSRグループ重要リスク」と位置付けています。このうえで、それぞれの重要リスクへの対策立案と実行を主導する主管部門を定め、リスク管理委員会が適宜その進捗状況を確認することで、リスク管理を行っています。

● リスクマネジメントの取り組み

JSRグループは、リスク管理委員会の主導で国内外の全事業部門からリスクを洗い出し、経営層の視点も加えた包括的なリスク管理を実施しています。リスクは影響度と発生頻度で評価され、「JSRグループ重要リスク」に対しては主管部門が対策を立案・実行し、その進捗を委員会が随時確認しています。

また、「JSRグループ リスク管理規程」にて、平時および有事におけるBCM／BCPの統括組織や運用体制、BCPの発動・解除の基準を定めています。

大地震や津波に備え、高圧ガス設備の耐震強化などの安全対策や各種の防災訓練を計画的に実施しているほか、安否確認や感染症対策など災害時の安全確保および、被害抑制と事業継続のための備えをしています。

● 情報セキュリティへの取り組み

JSRグループでは「情報セキュリティ方針」を定め、従業員への周知を徹底することで情報の適正管理に努めています。また実際の被害を想定した訓練も行っており、2024年はサイバー攻撃への対応訓練を実施したことに加え、これらの脅威に対するガイドラインを作成しました。



詳細は、[リスクマネジメントをご参照ください。](#)